

水稻 乳白米防止のため穂肥は適期に適量を!

1. 分施肥系の品種別穂肥施用の目安

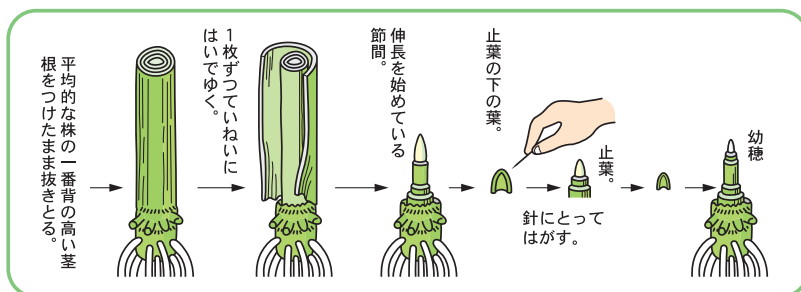
品種名	1回目				2回目
	幼穂長	葉色	穂肥名	施用量(/10a)	施用量(/10a)
ハナエチゼン (6月下旬頃)	2mm	4~4.5	エコ追肥	13kg	13kg 砂質浅耕田(17kg)
あきさかり (7月中旬頃)	2mm	4~4.5	エコ追肥	13kg	13kg 砂質浅耕田(17kg)
コシヒカリ (7月中旬頃)	10mm	3.5 (笹竹色)	エコ追肥	13kg	13kg 砂質浅耕田(17kg)

※2回目の施用は1回目から7~10日目に施用

●コシヒカリの穂肥(葉色、根の張り具合をよく観察してください)

稲の状態	葉色が3.5以上の場合 葉色が3.5未満でも、稲が柔らかく、葉が垂れぎみの場合
対策	倒伏防止のため、1回目の穂肥の量を減らすか、 1回目の穂肥を施用する時期を遅らせる

2. 幼穂の確認方法



3. 紋枯病に注意

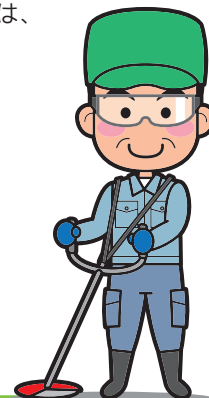
紋枯病は発生すると、病斑から菌糸が伸びて隣の株に付着し、まん延します。病勢が激しいと葉鞘ばかりでなく、葉や穂まで侵し、枯死などにより減収します。

また、イネなどに形成された菌核は、越冬して次年度の伝染源になるので、昨年発生した圃場は、必ずモンカット粒剤を散布してください。

薬剤名	10%あたり使用量	使用方法	使用時期	使用回数
モンカット粒剤	3~4kg	湛水散布	出穂10~30日前 ただし収穫14日前まで	3回以内

4. 畦畔草刈りの実施

斑点米発生の原因となる、カメムシの発生密度を減らすために、最も効果的な第1世代幼虫の増殖を抑えるため、畦畔の草刈りを行いましょう。



畦畔草刈実践デー 6月19日(土)、20日(日)、7月3日(土)、4日(日)

「熱中症警戒アラート」を利用しましょう



環境省と気象庁は、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予想される場合に、暑さへの「気づき」を呼びかけ皆さんの熱中症予防行動を効果的に促す「熱中症アラート」を運用しています。



●より詳しい情報は
環境省： <https://www.wbgt.env.go.jp/>

環境省 熱中症 検索

こんな日は熱中症に注意

気温が高い
湿度が高い
風が弱い

暑に暑くなった

環境省 熱中症予防情報サイト(スマートフォン・携帯対応)
<http://www.wbgt.env.go.jp/sp>

1 熱中症になった時の処置は
意識がある、反応が正常な時

涼しい場所へ避難させる
衣服を脱がせ、身体を冷やす
水分・塩分を補給する

ただし、水を自力で飲めない、または症状が改善しない場合は直ちに救急隊を要請しましょう

2 熱中症になった時の処置は
意識がない、反応がおかしい時

救急隊の要請をする
涼しい場所へ避難させる
衣服を脱がせ、身体を冷やす
医療機関に搬送する

倒れた時の状況が分かる人が医療機関に同行しましょう

農作業時の熱中症に 注意しましょう

高齢者は要注意

高齢者は若者に比べ、暑さや喉の渇きを感じにくくなっています。周囲の人も積極的に声をかけましょう。

農作業安全確認運動

農林水産省では、令和4年までに農業機械作業に係る死亡者数を平成29年水準（211件）から半減することを目標に、令和2年からの3年間を集中対策期間として対策を強化して、春（3～5月）と秋（9～10月）に重点期間を設定して、農業機械作業の事故防止に向けた運動を展開しています。



～重点推進テーマ～

「見直そう！農業機械作業の安全対策」

農業機械作業による死亡事故が多発している状態が続いていることを踏まえ、昨年度に続き、特に死亡事故の発生割合が高い乗用型の農業機械の作業におけるシートベルト・ヘルメットの着用徹底など、農業機械作業の安全対策を見直す運動を全国的に展開します。

